

第5学年 国語科学習指導案

日時 平成16年7月7日(水)5校時

児童 男子10名 女子10名 計20名

指導者 田代英樹

1 単元名 読書の楽しさを伝え合おう(光村図書5年上)

2 教材名 「プラム・クリークの土手で」「宇宙をみたよ」「本と出会おう」「読書発表会を開こう」

3 単元について

(1) 単元について

本単元では、「プラム・クリークの土手で」「宇宙をみたよ」の二つの教材を手がかりに、それぞれに関連した本を読むなど読書活動の拡大を図っていく。「プラム・クリークの土手で」は、ローラを主人公とする物語で広く親しまれている。自然の大きな力に気づき、その自然と向き合う事によって、自己の内の意志の力にも気づくという内容であり、ローラの今後の成長の姿を読書によって楽しむその導入ともなっている。「宇宙をみたよ」もテレビや映像を中心とする書物によって親しまれている。宇宙・銀河・星・地球・人間、これらの不思議の連鎖のなぞは、この期の児童にとっては衝撃的な関心事となる。なぞや驚きを掘り起こしていくことで、さらなる読書活動へと発展させる事ができる教材である。これら二つの教材でグループ読書会を開くことで、一人では難しい読みの深まりや修正が期待でき、多様な視点での読みの豊かさにも気づく事ができるであろう。このときの話し合いが、読書発表会のグループの話し合いにも生かされるように構成されている。

(2) 児童について

冒険と危険、克服と成長をテーマにした物語は、高学年のこの期の児童に必要なものである。また、ドキュメンタリーの迫力を感じ取る力や想像力を身の回りを超えてはばたかせる力も十分備わっている。

学級の児童も、冒険・勇気・友情、などをテーマにした本や、福祉・障害者に関わる本などを読む子が多くなってきた。朝読書の続きを、休み時間や5分の休憩時間にも夢中になって読んでいる児童もいる。しかし、感想等を読んでみると、作品の主題を読み取っていなかったり、深まりが感じられないことも多い。また、自分の考えを交流し合う活動では、お互いの考えを発表した後、意見を交流し合うことに消極的な傾向が見られる。

これまで児童は、「新しいわたし」で、自分の考えを発表したり話し合う活動や、想像しながら読む事、自問自答しながら読む事などを学習した。「海にねむる未来」では、要旨のとらえかた、自分の考えを持ちながら読み進めていく事を学習した。また、「言葉の研究レポート」では、調べた事を整理して、分かりやすく伝える学習をしている。本単元では、これらの学習で身につけた力を、しっかりしたものにしてほしいというねらいも持っている。

(3) 指導にあたって

第二次では、二つの作品のどちらかを選び、自分の課題を解決しながら詳しく読み進めていく。二つの作品については、ビデオを見せたり他の著書などを紹介し、イメージを膨らませてから作品を選ばせ、読みの意欲付けを図りたい。読書会では、同一作品で課題も類似しているグループをつくり、自分の感想との共通点や相違点のほか、自分の疑問を投げかけ友達の考えを聞いたり、課題についての考えを交流し合ったり、積極的な話し合いを持たせたい。

第三次では、友達に向けて読書発表会をする。テーマを決め、テーマに沿った本を読み感想文を書く。感想文を書くときには、メモや付箋紙を利用しながら、「自分の考えが変わったり広がったりしたところ」を内容の中心に据え、言葉によってそれを明らかにさせていきたい。グループはテーマ毎につくり、感想文を読み合い、それぞれの本の感想からテーマについての考えが深まるような話し合いを持たせたい。発表会では、相手が興味を持って自分達が読んだ本を読んでもくれたり、自分たちの考えや思いが伝わったりするよう、グループで工夫を凝らした楽しい発表を考えさせていきたい。

4 単元の目標

二つの作品を読み、本の世界の広さや楽しさに気づく。
 さまざまな方法で興味がある本を探して読み、感想をまとめる。
 読書発表会を開き、読書の楽しさを伝え合う。

5 単元の指導計画（学習指導計画 16 時間）

	学 習 活 動	関心・意欲・態度	話すこと・聞くこと	書くこと	読むこと	言語事項
第一次	教科書を概観し単元の見通しをつかみ、読書発表会への意欲を持つ。					
第二次	2つの作品を読み簡単な感想を書く。					
	課題を決めて、考えや疑問をメモする。					
	メモをもとにグループ読書会を行う。 深まった感想をまとめ次の読書会に意欲を持つ。 「言葉の学習」に取り組む。					
第三次	教科書を読んで活動の内容を知り、テーマについて話し合う。テーマを決めて本を選び、読む。					
	しおりやメモをもとに感想文を書く。					
	グループで感想をもとに話し合い、発表の準備や練習をする。					
第四次	読書発表会を開く。（本時）					
	学習を振り返り自分のめあてを持ったり計画を立てたりする。					

は主目標

6 本時の指導

(1) 目標

- 自分の読んだ本の感想やその内容のよさを相手に伝えたり、聞いたりすることができる。

(2) 本時の評価

評価規準

【話すこと】自分の読んだ本の感想やその内容のよさについて、それが相手に伝わるような発表ができる。

【聞くこと】相手の伝えようとした内容を理解することができる。

	具体的評価規準	Aの状況の具体的姿	Cの状況への手だて
話すこと	読んだ本のあらすじの説明にとどまらず、自分の考えが広がった点についての発表ができる。	自分の考えが広がったり変化したりした点について相手に伝えるために発表をどのように工夫したのかについて説明できる。 ・ 発表の仕方の選択理由について説明することができる。 ・ 感想がテーマに沿っており、筆者の考え方にまで言及した感想を書くことができる。	その本を読んで自分が最も強く感じたこと（楽しかったこと、驚いたこと等のキーワードを与える）について考えさせ、それをまず発表できるようにさせる。
聞くこと	また、相手の伝えようとした内容の概要を理解することができる。	聞き取った内容から自分の考えが広がったり変化したりした点について感想や質問等をする形で相手に説明することができる。 ・ 発表された本の内容についての感想発表や質問をすることができる。	「～と思いました。」 「～と感じました。」 等の言葉に着目させたり、発表内容についてメモを取らせたりして、発表者の意図をつかませる。

(3) 展開

過程	学 習 活 動	教師の働きかけと ・ 予想される児童の反応	支援上の留意点 評価
導 入 5 分	1 課題を把握する。		
	読書発表会をしよう		
	2 方法を確認する。	<p>どんなことが伝わるように発表したらいいですか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 自分の考えが広がったり変化したりしたこと ・ 自分たちが考えたこと ・ 感想 <p>それが相手に伝わるように発表の準備をしてきましたね。</p> <p>聞いているみなさんは、発表している人たちが一体何を伝えようとしているのを見つけられるようだといいですね。</p> <p>そして、自分が感じたことを発表している人たちに返してあげましょう。</p>	<p>発表後に質問や感想を交流することを伝える。</p> <p>自分たちがその本を読んでどんなことを考えたのか、またその本を他の児童に勧める理由はどんなところが表れるように発表することを再確認する。</p> <p>聞く側は聞いていて発表者が一番伝えたい点や自分の考えが広がった点についてメモをとりながら聞くように指示する。</p>
展 開 30 分	3 グループごとに発表する。	<p>それでは発表してください。</p> <p>今度は感想や質問を発表してください。 (以降全グループの発表が終わるまでこの繰り返し)</p>	<p>発表者には伝えたいことをシンプルに発表させる。聞く側の質問によりそれ以外の点についても話がふくらむようにする。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>自分の読んだ本の感想やその内容のよさについて、それが相手に伝わるような発表ができる。また、相手の伝えようとした内容を理解することができる。[発表、感想、自己評価]</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>意図を持って表現を工夫して話そうとしたり、工夫の意図をとらえて聞き取るうとしている。[観察、自己評価]</p> </div>
ま と め 10 分	4 自己評価をする。 5 感想を紹介し、次時の予告をする。	<p>今日の発表会について、自分たちの発表、そして発表を聞いて感じたことを書きましょう。</p> <p>みんなの伝えたいことが伝わったようです。</p> <p>友達の発表を聴いて今度読んでみたいと思った本はありましたか。</p> <p>次の時間はこれからの読書計画を立てます。</p>	<p>発表を聴いて興味を持った本があれば感想に書くよう指示する。</p> <p>他の発表の内容や方法について書かれてある感想を中心に2～3人に発表させる。</p>